

NEWS LETTER

2020年11月20日
一般財団法人岩手経済研究所

「いわて景気ウォッチャー調査」－2020年10月調査－について

一般財団法人岩手経済研究所（理事長：高橋 真裕）は、定例の「いわて景気ウォッチャー調査（2020年10月調査）」を実施しました。

本調査の結果は以下のとおりです。

現状判断 51.8

※前回（2020年7月）調査比7.5ポイント上昇

先行き判断 40.5

※同0.2ポイント上昇

本調査の概要は、別紙「いわて景気ウォッチャー調査結果－2020年10月調査－」のとおりです。
また、詳しくは11月30日発行の当研究所機関誌「岩手経済研究 2020年12月号（No.457）」にも掲載いたします。

2020年11月20日

いわて景気ウォッチャー調査

－ 2020年10月調査 －

盛岡市中ノ橋通一丁目2番16号
岩手銀行中ノ橋支店3階

一般財団法人 岩手経済研究所
理事長 高橋 真裕

(担当 地域経済調査部 高橋 宏輔)
TEL 019-622-1212

＜ 調査結果の概要 ＞

1. 県全体の状況

現状判断は10期ぶりに50を上回ったものの、先行き見通しは50を下回る

(1) 現状判断 ～10期(30カ月)ぶりに50を上回る～

県内の景気の現状判断指数は、51.8と前回(44.3)に比べ7.5ポイント上昇し、景況感の分かれ目とされる50を10期ぶりに上回った。政府によるG o T oキャンペーンなど消費拡大に向けた対策に一定の効果が見られることや一部の企業で採用意欲が回復しつつあることなどから、家計動向、企業動向、雇用のすべての分野について指数の改善がみられ、県内の景気ウォッチャーは持ち直しの動きを感じている(図表1)。

回答構成比は「良くなっている」「やや良くなっている」が36.0%(前回36.0%)と前回調査と同じとなり、「変わらない」は33.0%(同22.0%)と増加した。一方、「やや悪くなっている」「悪くなっている」が31.0%(同42.0%)と減少した(図表2)。

分野別では、家計動向関連指数が54.4(同48.1)、企業動向関連指数が46.7(同38.5)、雇用関連指数は44.4(同30.6)といずれも前回より上昇した。

家計動向関連では、消費拡大に向けた政府の施策による好影響を示す回答があった。また、企業動向関連でも売上げの減少に底打ち感が出ているとの声が聞かれ、雇用関連においても一部の企業で採用意欲の回復を示す回答がみられた。

地域別では、県央地域が52.7(前回47.7)、県南地域が48.6(同41.9)、沿岸地域が56.9(同46.1)、県北地域が50.0(同38.9)となった(図表5)。

(2) 先行き見通し ～先行き判断は50を下回る～

2～3カ月先の県内の景気の先行き判断指数は、40.5と前回(40.3)に比べ0.2ポイント上昇したものの、10期連続で50を下回った(図表3)。

回答構成比は「良くなる」「やや良くなる」が19.0%(前回20.0%)と減少し、「変わらない」は36.0%(同36.0%)と前回調査と同じであった。一方、「やや悪くなる」「悪くなる」は45.0%(同44.0%)と増加した(図表4)。なお、判断指数については、今回調査では「良くなる」の回答があったほか(前回はゼロ)、「悪くなる」の割合が減少した一方「やや悪くなる」が増加したことからやや上昇となった。

分野別では、家計動向関連指数が41.5(同42.5)、企業動向関連指数は40.2(同39.6)、雇用関連指数は33.3(同25.0)となった。

政府などによる消費拡大に向けた対策に期待を寄せる声がある一方、引き続き新型コロナウイルスの感染拡大による景気の冷え込みを懸念する声も聞かれた。

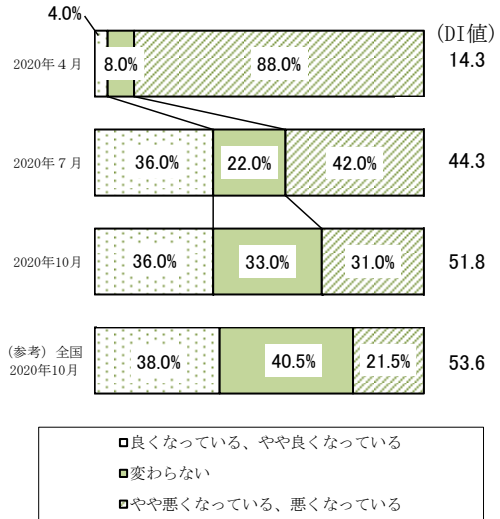
地域別では、県央地域が42.6(前回37.5)、県南地域が41.2(同39.4)、沿岸地域が36.1(同47.4)、県北地域が37.5(同38.9)となった(図表5)。

(ウォッチャーのコメントは参考1、調査要領については参考2をそれぞれご参照ください。)

図表1 景気の現状判断指数（DI）の内訳

分野	2020年 4月	2020年 7月	2020年 10月	増減
合計	14.3	44.3	51.8	7.5
家計動向関連	10.8	48.1	54.4	6.3
小売関連	16.3	50.0	51.0	1.0
飲食関連	1.6	57.1	58.3	1.2
サービス関連	8.3	43.1	56.6	13.5
住宅関連	17.9	37.5	53.1	15.6
企業動向関連	20.8	38.5	46.7	8.2
雇用関連	22.2	30.6	44.4	13.8

図表2 回答構成比（現状判断）

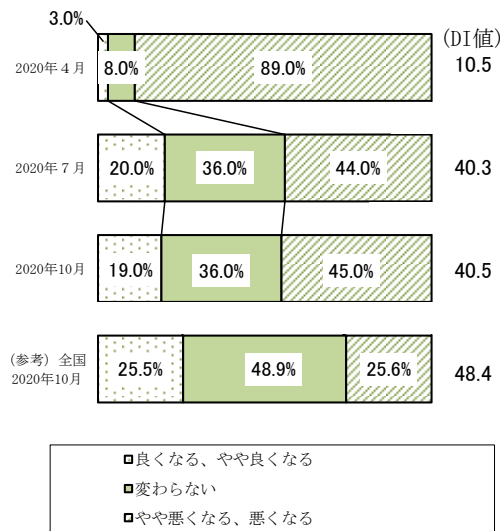


(注) 単位未満四捨五入につき合計が100%とならない場合がある

図表3 景気の先行き判断指数（DI）の内訳

分野	2020年 4月	2020年 7月	2020年 10月	増減
合計	10.5	40.3	40.5	0.2
家計動向関連	9.3	42.5	41.5	△ 1.0
小売関連	8.7	39.8	39.4	△ 0.4
飲食関連	3.1	41.1	48.3	7.2
サービス関連	15.3	48.6	39.5	△ 9.1
住宅関連	10.7	40.6	40.6	0.0
企業動向関連	12.5	39.6	40.2	0.6
雇用関連	13.9	25.0	33.3	8.3

図表4 回答構成比（先行き見通し）



(注) 単位未満四捨五入につき合計が100%とならない場合がある

図表5 地域別の景気判断指数

地域	景気の現状判断指数（DI）				景気の先行き判断指数（DI）			
	2020年 4月	2020年 7月	2020年 10月	増減	2020年 4月	2020年 7月	2020年 10月	増減
合計	14.3	44.3	51.8	7.5	10.5	40.3	40.5	0.2
県央地域	13.2	47.7	52.7	5.0	10.4	37.5	42.6	5.1
県南地域	14.4	41.9	48.6	6.8	10.0	39.4	41.2	1.8
沿岸地域	20.3	46.1	56.9	10.9	12.5	47.4	36.1	△ 11.3
県北地域	6.3	38.9	50.0	11.1	9.4	38.9	37.5	△ 1.4

【参考1：景気ウォッチャーの主なコメント】

	分野	判断	判断の理由
現 状	家計 動向 関連	良	G o T o トラベル事業の効果で修学旅行生の利用が大幅に増加しており、売店の売上げは前年並みまで回復した。(県南：観光事業)
		やや良	土地や中古住宅などの物件に関する問い合わせが増加した。(県央：不動産取引業)
		やや良	7月末に県内で初めて新型コロナウイルスの感染が確認されて8月は来客数が減少したが、9月から10月にかけてG o T o トラベル事業などの効果により増加した。(県央：観光事業)
		やや良	暖房機や給湯器を買い替える客が増えた。背景には在宅勤務の増加などがあるとみられる。(県央：燃料小売業)
		不変	地域限定のプレミアム付き商品券を利用する一般客の来店が若干増えたが、宴会の予約がほとんどなく、アルコールの販売も伸びないため全体としては3カ月前と同じ水準であった。(県南：飲食業)
		やや悪	人の動きが少なく、新車だけでなく中古車の販売も振るわなかった。(沿岸：自動車整備販売業)
		やや悪	消費マインドは冷え込んでおり、同ウイルスの感染拡大以前の状況には戻っていない。(県北：各種商品販売業)
		やや悪	同ウイルスの感染拡大に加えて増税に伴い10月からたばこが値上がりしたため、客足が遠のき売上げが減少した。(県南：コンビニエンスストア)
	企業 動向 関連	良	売上高は10月に入ってから回復基調にある。(県南：板ガラス加工業)
		不変	7月との比較では売上げに変化はなかった。(県南：肉製品加工製造業)
雇用 関連	やや良	同ウイルスによる自粛が緩和してきており、企業による選考が活発になった。(県央：学校就業担当)	
	不変	業種や学部ごとに違いはあるものの、新規求人件数と就職内定率はともに概ね前年同月と同水準となった。(県央：学校就業担当)	
先 行 き	家計 動向 関連	やや良	G o T o トラベル事業における地域共通クーポンや地域限定のプレミアム付き商品券を取り込むことにより売上げの減少をカバーしつつ、店舗ごとにキャンペーンを打ち出すことでさらに売上げを伸ばしていく。(沿岸：ガソリンスタンド)
		やや良	会議・宴会・婚礼部門については引き続き伸びは小さいと予想されるものの、宿泊・レストラン部門では今後も回復を見込む。(県央：ホテル業)
		不変	人の動きは良くなると思うが、同ウイルスのクラスターが全国的に発生することが懸念され、一進一退が続くと思う。(県北：飲食業)
		不変	常連客が売上げの中心であることから変化はないと見込む。(県央：理容業)
		やや悪	たばこ税増税により禁煙した客が増えているほか、同ウイルスの影響から近隣の事業所の従業員が事業縮小のため退職を余儀なくされたことも相俟って売上げは減少する見込みである。(県南：コンビニエンスストア)
		やや悪	ネット通販は好調が続くとみられるが、観光客の減少が予想されることから店舗での売上げはマイナスとなり、全体としての売上げはやや減少すると見込む。(沿岸：菓子小売業)
		悪	政府の施策や海外の一部との往来の再開により人の動きが活発になることで同ウイルスの感染が再拡大する危険性が高まっているなか、二度目の緊急事態宣言が発出されれば、消費マインドがさらに冷え込む恐れがある。(県央：米麦卸売業)
	悪	地域限定のプレミアム付き商品券の期限が10月末に到来し、それ以降の発行の予定がないため、今後の売上げは厳しくなるものと予想する。(沿岸：飲食業)	
	企業 動向 関連	良	今後も受注が増える見込みである。(県南：製造業)
		不変	同ウイルスの感染者が急増しなければ、あまり変化はないと思われる。(県央：酪農業)
雇用 関連	やや良	G o T o トラベル事業などの政府の施策により経済活動が活発になることが期待され、雇用状況もある程度改善していくと見込まれる。(県央：学校就業担当)	
	やや悪	8月以降、求人情報を持ち込む企業が減少している。(県南：学校就業担当)	

【参考2】

＜ 調査要領 ＞

1. 調査内容

- (1) 景気の現状に対する判断
- (2) (1)の理由及び具体的状況の説明
- (3) 景気の先行きに対する判断
- (4) (3)の理由

※(1)、(3)は5段階評価による回答とする。

2. 調査時期

2020年10月

3. 調査対象者・方法

県内の景気の動きを観察できる立場の方々112名への郵送、電話による聴取（内容は下表のとおり）。

調査対象者の分野・業種

分 野 (調査対象者数)		調査対象者の代表的な業種
家 計 動 向 関 連 （ 7 7 名 ）	小売関連 (30名)	百貨店、スーパー、コンビニ、 一般小売店、自動車販売など
	飲食関連 (17名)	飲食店、割烹・料理店、スナック、 外食チェーンなど
	サービス関連 (22名)	ホテル・旅館、クリーニング店、 ガソリンスタンド、タクシーなど
	住宅関連 (8名)	建設設計事務所、不動産販売、 住宅販売など
企業動向関連 (25名)		製造業、広告代理店、運輸業、 農林水産業など
雇用関連 (10名)		人材派遣、学校就業関係者、 求人広告など

調査対象地域の区分

地 域 (調査対象者数)	市町村
県央地域 (40名)	盛岡市、八幡平市、滝沢市、 雫石町、葛巻町、岩手町、 紫波町、矢巾町
県南地域 (43名)	花巻市、北上市、遠野市、 一関市、奥州市、西和賀町、 金ケ崎町、平泉町
沿岸地域 (19名)	宮古市、大船渡市、陸前高田市、 釜石市、住田町、大槌町、 山田町、岩泉町、田野畑村
県北地域 (10名)	久慈市、二戸市、普代村、 軽米町、野田村、九戸村、 洋野町、一戸町

4. 回答状況

有効回答数 100件

回収率 89.3%

5. 指数(DI値)の算出方法

5段階の判断に、それぞれ下表のとおり点数を与え、これらに各判断の構成比(%)を乗じてDI値(Diffusion Index)を算出する。DI値は50を目安としており、50を上回っていれば景気の上昇局面、下回っていれば下降局面と判断する。

指数(DI値)点数表

回答区分	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
点数	+ 1.00	+ 0.75	+ 0.50	+ 0.25	0.00